

園だより

第4号（平成29年11月発行）
文責：一新幼稚園長 山岡 喜美子



落ち葉を
掃除する
年中児

2学期も、残すところ1ヶ月となりました。運動会をやり遂げた後の子どもたちは、園内では体を動かす遊びを十分に楽しんできました。また、地域の祭りや行事、園外保育等、様々な自然体験や社会体験をとおして、人とのつながりを感じたり自然の恵みを生活に取り入れたりして充実した園生活をすごしてきました。

獅子舞いは本当に魅力的です。自前の獅子頭を製作して繰り返し遊びました

一新校区獅子保存会の方々が、飾りおろしの日に披露してくださった獅子舞いに心動かされた年長児は早速、園に保管されている獅子頭をもって園内を巡りました。年中組では、一人の子どもが空き箱等で獅子頭を作ったことがきっかけとなり、獅子舞いを再現して遊び始めました。教師がゴザや音楽を準備すると、子どもたちは、獅子舞いの時に飾られていたボタンの花の代わりに、花が植えられている玄関前のプランターを運び、中央に設えて舞い始めました。舞う時の表情は真剣で、友達に構え方や動き方まで教えていました。後ろ足を担当した子どもが前足担当の友達の動きと調子を合わせ、本物と同じような足さばきが見られました。地域で受け継がれてきた芸能文化が、園内でも遊びとして受け継がれています。子どもたちは、地域の文化に触れながら地域を愛する心が育っていきます。今後も獅子舞いとの出会いを大切にしていきたいと思ひながら、「一新幼稚園獅子保存会」の舞いを見えています。



一新校区福祉祭りに参加しました



10月15日には、一新校区福祉祭りに参加し、日頃のお礼をこめて地域の皆様に「元気」を届けました。年長児が鳴らす和太鼓の音や、年少・年中児の表現を笑顔で観ておられました。ある方は、「子どもたちの姿を見るだけで元気になります。」「太鼓の音はいいですね。体にしみこみます」と言われました。天候が不安定で、途中歩道がない所もあって、会場との往復は大変心配しました。保護者の方に引率をお願いすればよかったと反省しました。来年もぜひ参加し、地域の人々との交流を通して、みんなのために役立つことの喜びを味わわせたいと思った一日でした。

年長児ならではの三角遠足

10月27日、「園→路線バスにて熊本駅→電車にて三角駅」の行程で「鉄旅」を楽しんできました。熊本駅では、三角行きのりばが変わったことに気付いて慌てる場面もありましたが無事に乗ることができて一安心。車内では、海が見え始めると「海だ。海だ〜。」と大はしゃぎ。宇土駅を過ぎたころ、先生はグループごと前方に連れて行きました。いろいろな計器が並んでいる運転席や運転の様子に興味深く見ていました。フロントガラスは子どもの背丈より高い位置にあるため、先生は子ども一人一人を抱いて線路を走っていく様子を眺めるようにしました。車窓からの眺めは、♪線路は続くよ、どこまでも〜の歌のとおりでした。一方、座席では、園長からの「海の中にたくさん立っている棒は、何のためでしょうか。」の質問に、「魚を捕るため。」「あれは海苔を作るためよ。（これが正解!）」等と答えたり、何も持たずに自分の足で踏ん張って立てるか試したりしました。（これについては、安全面に留意し、「今日は園長先生と一緒に挑戦しますがしっかり気をつけなさい。」と伝えてから挑戦しました。）車内を移動したりおしゃべりするうちに声が大きくなったりする場面では、一般の客と乗りあっていることに気づき、公共の乗り物内でのマナーを学ぶよい機会にもなりました。三角港では、展望台に上って景色の美しさや高さを感じました。付近の物産館では、おいしい三角みかんを品定めして、自分たちのデザート用と園で待っている年下の友達へのおみやげを購入しました。年長だからこそできる小旅行を満喫しました。



園外へとびだして、秋の収穫に大喜び



◇立田山へどんぐり拾いに出かけました。年中・年長児は小磧橋でバスを降りて長い山道を進んでいきました。年少児は、バスが進入できる山の入り口付近で下車して立田山の散策が始まりました。年少児は、どんぐりを見つけるたびに喜びました。最初に立ち寄った場所で、袋いっぱい拾った子どももいました。年中・年長児と合流する展望所まで、木漏れ日の中を歩きました。どんぐりの他、木の枝や木の葉を見つけたりしながら歩いていきました。山には、しま模様のクモがあちらこちらに巣をつくっていました。クモがいることを知らせると、初めは遠巻きに見ていましたが、クモの巣が破れると慌てて逃げる様子を見たり、クモの巣ごと捕えてクモの背中を触る姿を見ると自分も触ってみたいやしていました。展望所では「今日は〇個持ってきた。」「こんなおにぎり持ってきた。」と話しながら、おにぎり開きが始まったころ、年中・年長児も展望所に到着しました。年中児・年長児それぞれにたくさんの山の恵みを収穫できたようで、年少児に袋の中を見せたり、分けたりしてくれました。食後は、展望所の斜面を駆け下りたり転がったりして解放感を味わって遊びました。

翌日からは持ち帰ったドングリを使って、飾りや楽器（マラカス）を作ったり、どんぐり虫を観察したりしました。豊田先生が作った「コロコロゲーム」が職員室前に現れると気づいた子どもたちから遊び始めました。どんぐりをゴールまで転がすためにあれこれと考えながら繰り返し試していました。立田山とどんぐりは、自然の不思議さや思考力の芽生えをもたらしてくれました。



◇東区弓削町（県運動公園北側）の畑に、芋ほりに出かけました。畑に着き、芋の種類や



掘り方を聞くと、張りきって広い畑へと入っていきました。子どもたちは、土の中の芋を発見すると、夢中で掘りました。芋を掘り出すと、いくつもの芋がつながっている様子や大きさや長さ等気づいたことを伝えて、次の芋を掘ることに挑戦していきました。年長児の中には、最後まで粘り強く掘る姿や友達の手助けを進んでする姿が見られ、感心しました。掘った後は、袋に入れてトラックまで運びました。子どもたちは、芋袋が重いので、途中で一回休んでから体力を持ち直してからもう一度抱えたり、友達に助けを求めて2人で抱えたりして運びました。帰園後、収穫した芋を眺めながらおにぎりを食べた後、芋を大中小に分けました。芋の大きさを比べて分ける子どももいれば、そうでない子どももいて、大きさの認識に個人差が見られました。持ち帰る芋は、大きい芋、中位の芋、小さい芋の列から、自分で選びました。後日、持ち帰った芋でおやつを作ってもらったり弁当に入れてきたりしたことを、子どもたちが話してくれました。



秋の食育はこれ！

園での食育（食体験）は、「友達と同じものを食べることでおいしさを共感する」「旬の味や伝統的な食文化を楽しむ」ことを大切にしています。また、体験の場所は、子どもたちが情報をキャッチして関心をもって取り組める所を選ぶようにしています。

◇この日のメニューは、スライスした芋を油を引かずにホットプレートで焼くだけの簡単おやつでした。先生方に相談し、（食べるのが弁当後になるように）弁当が始まる頃準備を始めたところに年長児の一人がちょうど通りかかりました。そこで、時間があるなら手伝ってほしい。」と頼むと、二つ返事で引き受けてくれました。誰にでもわかりやすいように肉厚な文字とゆげのたった芋の絵で看板を作って、見えやすい場所に貼ってくれました。味見をしてもらおうと、首を振って「うん。うん。おいしい。」とGOサインが返ってきました。しばらくして、芋の香ばしいにおいに気付いた子どもたちがやってきました。手伝ってくれる頼もしい相棒は、「この紙に芋を入れてもらうから、1枚取って待ってて。」「こっちに並んで。」と場内整理に大忙し。並んでいた子どもたちは、自分の番が来ると一番大きい芋を選んだり、自分のお腹と相談してサイズを選んだりしました。おかわりができることを伝えると、1回目の芋は熱すぎたらしく、2回目は冷めた芋を希望する子どももいました。



◇私は、休日になると旬のものを求めて、砥用町の物産館に足を運びます。秋は、むかご・山芋・ぎんなん・あけび・なば（きのこ）とともに、渋柿が並べてあります。そこで、園でも干し柿を作ることにしました。

今回の作業は、もも組の前で始めました。発表会の練習の合間をぬって、年中児がやってきました。むいた皮を手に取って、「へびだー。」とイメージを膨らませたり、皮をなめては渋さに顔をしかめたりしていました。皮をむいた柿は、みんなで職員室前のテラスに運び、用意してもらった湯に、「1, 2, 3.」の間浸ける作業をしました。

最近、「もう、食べられる？」と尋ねる姿が出てきました。ご家庭でも、秋の風物詩「干し柿」を親子で作って、伝統の食文化と一緒に楽しんでみてはいかがでしょうか。



おうちの方のパーティーを感じた日

◇ 10月4日、西山中学校2年生の家庭科授業「母子交流活動」に5人の保護者の方の協力のもと、中学生とふれあってきました。武道場には、妊婦の体験コーナーと、子育て中のお母さんにインタビューしたり幼い子どもと遊んだりするコーナーが作られていました。活動中は、中学生からの「子どもの名前の由来」「幸せと感じる瞬間」「子育ての大変さ」「将来どう育ててほしいか」等の質問に答えたり、母子手帳や産声の録音記録を聞かせたりしておられました。活動後、保護者の方一人一人が中学生に向けて感想を伝えてくださったことも、中学生にとって貴重な振り返りの時間となったそうです。お世話になりました。

◇ 11月7日、後援会による「愛園バザー」が開催され、子どもたちにはゲームコーナーを提供していただき、各クラスが魚釣り、モグラたたき、くじ引き、輪投げを楽しめました。ゲームコーナーでは、担当の方からやり方を教わり、ゲーム中は「すごいね。がんばって。」とほめられたり励まされたりし、楽しさを共感し合うことができました。これらのやりとりによって、子どもは人の温かさを感じ、人への親しみをもち、人とかかわることへの関心を高めることができました。ありがとうございました。